

年間第19主日

第一朗読 知恵 18・6-9  
第二朗読 ヘブライ 11・1-2、8-19  
福音朗読 ルカ 12・32-48

2025.8.10 9:30 ミサ  
カトリック高円寺教会  
ミラノ外国宣教会司祭 ジーワン・クマール神父

今日のミサで読まれた3つの朗読は信仰生活に関する色々なテーマについてでしたけれども、その中の2つの大切なテーマは、「忠実さ」と「警戒」です。聖書の専門家によると、ルカの福音書のこの部分は、迫害を受けていた初期のクリスチャンたちを励ますために書かれたそうです。そんなひどい状況でも、キリストが再び来られることへの希望を失わないように気をつけなさいというメッセージでした。

主キリストの再臨は、今日の福音で婚宴へ行っていつ戻ってくるかわからない主人にたとえられています。たるんだ召使いのように、信者たちも希望を失い、世の中の楽しみや富を追いかけるようになるかもしれません。だから、常に気をつけて忠実で賢い管理人のようにいなさいと言われています。最後まで忠実でいられる人は、神様に祝福されて幸いになるということです。

今の時代のクリスチャンであるわたしたちも、時にキリスト教徒としての自分の価値観や信念に信頼を失うことがあるでしょう。たとえば、悪いことをする人が成功していたり、不正にお金を稼ぐ人を見て、「道徳的な生活を送っても意味があるのか」と思ってしまいます。しかし、そんな時こそ、わたしたちはキリストの教えに従うべきだということです。初期のクリスチャンと同じように、  
こんにち  
今日、キリスト教徒は非常に少ないので、主キリストのこの言葉「小さな群れよ、恐れるな」は、小さなコミュニティであるわたしたちにも当てはまると思います。

今日の福音でイエス様はわたしたちを未来を目指して生きるよう招かれています。  
こんにち  
今日の多くの人々の考え方によれば、現在だけが大切です。現在志向の人々にとっては今が全てです。しかし、キリスト教徒は未来に向けて希望して、未来志向で生きるよう求められています。未来志向の人々にとって、来るべき

ものは、過ぎるものと過ぎ去ったものよりも素晴らしいという希望のことです。これは神様が約束してくださった未来です。アブラハムのように、わたしたちは神様の約束を信じるべきだということです。

しかし、未来志向だからといって、不安や恐怖から完全に解放されるわけではありません。かえって、自分の将来を確保するために富を蓄える可能性があります。今日の福音でイエス様はこの誘惑に対して警告をしてくださいました。さらに、イエス様の言葉「恐れるな」は、わたしたちに未来への恐れをなくす力を与えます。未来は神様の手の中にあるので、わたしたちは今をもちろん大切にするべきですが、今もまるで未来にいるかのように生きることが求められています。主人がいなくても、僕は主人が共にいるかのように働けば、主人がいつ来るかは関係ありません。そのために必要な美徳は忠実さだということです。

最後のポイントです。イエス様は「富のあるところに心もあるのだ」とおっしゃいました。それは、自分の人生で何を探しているかから何を大切にしたいかがわかるということです。もし目に見えるものばかりを求めているなら、それこそわたしたちのアイデンティティになります。イエス様は、わたしたちに一時的な物質的な世界を超えて見るように招かれています。

主キリストの教えに従って、未来を楽しみにし、一時的な物質的な世界から解放され、内なる喜びを目的として生きる恵みを求めて祈りを続けましょう。

---

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>